

# 米づくり情報 (NO. 4)

令和6年7月12日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

## 1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
6	1	20.6	19.4	25.8	24.7	16.3	14.5	24.3	0.0	27.1	50.7
	2	21.3	21.7	26.1	26.9	17.3	18.5	33.7	50.5	24.1	16.8
	3	21.9	24	26.5	29.6	18.2	19.7	48.2	0.0	22.1	45.7
	4	22.4	22.7	26.8	27.6	19.0	18.5	67.9	138.5	19.6	24.4
	5	23.1	24.3	27.1	27.2	20.0	22.0	85.9	65.0	16.0	8.4
	6	24.0	24.1	27.7	26.5	21.1	22.3	95.6	112.5	14.1	0.2
7	1	24.8	27.6	28.4	30.4	22.0	25.5	97.6	98.5	15.6	15.6

【6月5半旬～7月1半旬の気象概況】

・気温は7月1半旬で平年より高かった。日照時間は6月5,6半旬は平年より少なかったが、7月1半旬で平年並みになった。降水量は、平年並み。

## 2 生育状況 (7月9日)

項目 品種(設置場所)	移植 日	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉齢 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 東山代町脇野	5/23	本年値	47.9	263	8.2	39.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は、平年より高い</li> <li>・莖数は、平年より少ない</li> <li>・葉齢は平年並</li> <li>・葉色は平年より淡い</li> </ul>
		平年値	41.9	317	8.2	42.2	
		平年比(差)	114	83	(±0.0)	(-2.8)	
ヒノヒカリ 松浦町桃川	6/20	本年値	27.2	166	7.2	38.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は、平年より低い</li> <li>・莖数は、平年より少ない</li> <li>・葉齢は平年よりやや少ない</li> <li>・葉色は平年より淡い</li> </ul>
		平年値	33.2	210	7.5	41.7	
		平年比(差)	82	79	(-0.3)	(-3.3)	

### (耕種概要)

品 種	年 次	苗質		移植日	栽植密度 (株/㎡)	備考
		苗丈	葉令			
ヒノヒカリ	本年値	13.6	2.4	6/20	18.2	前作 大麦
	平年値	14.8	2.6	6/20	17.2	前作 大麦

※夢しずくの平年値は、H27～R6の平均値から最上位と最下位の数値を除いた平均値。

### 3 参考（平坦部 佐賀県農業試験研究センター）（7月9日）

令和6年7月9日

平坦部（佐賀県農業試験研究センター）

#### 本年産水稻の生育状況（7月9日）

移植日	項目 品種	年次	草丈	茎数	葉齢	葉色	概況 (平年と比較して)
			cm	本/m <sup>2</sup>	L	SPAD	
6月18日	夢しずく	本年	33.3	231	7.6	34.9	[気象] 7月1日～8日まで ◆平均気温…平年より 2.7℃高い ◆日照時間…長い(平年比 112%) ◆降水量…少ない(平年比 94%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」「さがびより」「ヒヨクモチ」はやや低い、「ヒノヒカリ」はやや高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」は多い、「ヒヨクモチ」はやや少ない ◆葉齢 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」はやや多い、「ヒヨクモチ」はやや少ない。 ◆葉色(SPAD値) 「夢しずく」「さがびより」「ヒヨクモチ」では平年並み、「ヒノヒカリ」ではやや低い。
		平年	34.8	192	7.2	35.6	
		平年比(差)	96	120	+0.4	-0.7	
6月20日	さがびより	本年	30.0	203	7.4	37.5	
		平年	30.5	170	7.2	38.0	
		平年比(差)	98	119	+0.2	-0.5	
6月20日	ヒヨクモチ	本年	26.7	294	7.3	39.9	
		平年	27.4	306	7.6	39.3	
		平年比(差)	97	96	-0.3	+0.6	
留意点	○ 7月1日～8日は日照時間が確保されたため、草丈は2～4cm程度の伸長で草姿(先週までは徒長気味)は回復した。葉齢は前回調査より2葉展開しており、4号、5号分けつが確保され、茎数は一気に増加した。						

- 注 1)「夢しずく」、「ヒノヒカリ」は、6月18日移植の稚苗(播種期 5/24、播種量 湿籾 180g/箱)  
 「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月20日移植の稚苗(播種期 5/27 播種量 湿籾 180g/箱)
- 2)栽植密度: 「夢しずく」は、条間 30 cm × 株間 17 cm, 19.6 株/m<sup>2</sup>(65 株/坪)  
 「さがびより」は、条間 30 cm × 株間 20 cm, 16.7 株/m<sup>2</sup>(55 株/坪)  
 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間 30 cm × 株間 15 cm, 22.2 株/m<sup>2</sup>(73 株/坪)
- 3)栽培管理: 施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。
- 4)概況欄の【草丈】、【茎数】の平年値との比較については、以下のように定義している。  
 低い(少ない): 94以下、やや低い(やや少ない): 95～98、平年並み: 99～101、  
 やや高い(やや多い): 102～105、高い(多い): 106以上。
- 5)平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差( $\sigma$ )を算出し、 $\pm 1\sigma$ の外側にある年次を除く年次を対象にした、各項目の単純平均値。

## 4 今後の管理

### 1) 山間早植え水稻（5月上中旬移植）

- ・幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、次の表を参考に穂肥診断を実施し、適切に穂肥を施用する。

《夢しすく 穂肥診断基準》

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg / 10 a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22~20日前	1 mm	3.0	18 kg
<b>73cm以下</b>	<b>3.0~3.5</b>	<b>38以下</b>	<b>20~18日前</b>	<b>2 mm</b>	<b>3.0</b>	<b>18 kg</b>
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6 kg
73~79cm	3.0~3.5	34以下	20~18日前	2 mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.0	6 kg
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			
80cm以上	原 則 と し て 施 用 し な い					

#### 【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ⑤穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない

### 2) 普通期水稻「夢しすく」

- ・有効茎（1 株当たり 20 本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。
- ・ガス対策として移植後 15 日、25 日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。  
ただし、用水確保が難しい地域では落水せずに湛水状態を保つようにする。
- ・中干しは約 1 週間、土壌表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度とし、中干し後は間断灌水を行う。なお、中干しを強めにした圃場（手が入るほどの亀裂がある）では、いったん通水し、ならしをしてから間断灌水に移行する。
- ・除草剤散布直後大雨によりオーバーフローしたほ場では、ヒエ、コナギやホタルイ等の雑草が発生する恐れがある。発生が多い場所では、中後期除草剤等による防除を実施する。



左 18 本 右 17 本  
（間もなく中干へ移行）

左 29 本 右 23  
（ただちに中干へ移行）

参考）茎数の目安



### 3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- 分けつ期を迎えている。除草剤処理後 1 週間経過した圃場は浅水管理に移行し、莖数確保に努める。

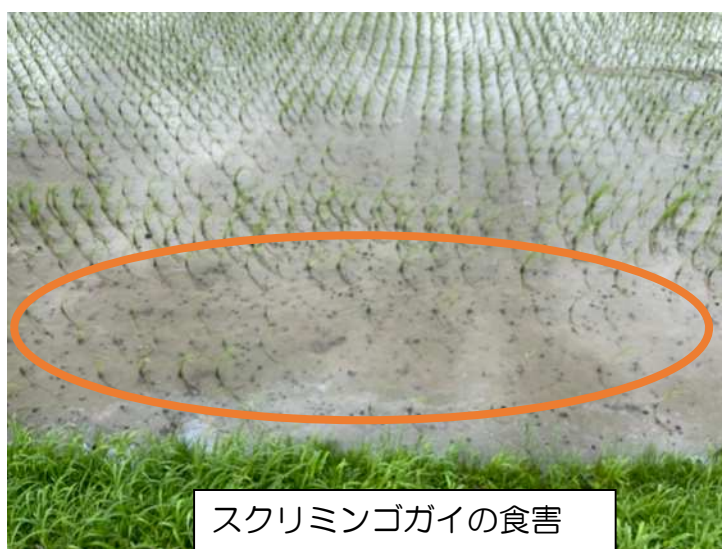
※除草剤は、散布後3日経過すれば有効成分が土壤に吸着されるが、除草剤の処理層が破壊されないよう湛水状態（水尻を止水して湛水状態を保ち自然落水によって田面が見えても1週間は入水しない。）を保つようにする。ただし、均平が取れず田面が露出した部分がある場合は、1週間後の雑草発生状態を確認し、早めに中後期剤等での防除を行う。



### 4) 共通

#### (スクリミンゴガイ)

- 佐賀県農業技術防除センターの病害虫発生予察情報（5月29日付け）では、6月のスクミリンゴガイの予想発生量は「多」になっており、6月5日に「スクミリンゴガイの注意報」が発出されている。
- スクミリンゴガイの被害が見られる圃場では、浅水管理にすると共に、必要に応じスクミノン、スクミンバイト3などで薬剤防除を実施する。



(いもち病)

6月下旬の曇雨天で感染好適条件が急増。山間部の常発地での発生に注意。

BLASTAM情報第4号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2024年7月1日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月	1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7日	-	-	-	-	-	●	●	-	1	-
	8日	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	9日	4	●	-	●	-	●	●	●	●	-
	10日	●	●	-	-	-	●	●	●	●	-
	11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	13日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	15日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	16日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	19日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20日	-	●	-	●	●	-	-	-	-	-
	21日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	22日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	23日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	24日	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	25日	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-
	26日	●	●	-	●	-	-	-	-	-	-
	27日	●	-	-	●	●	2	-	-	-	-
	28日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	29日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	30日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

6月26日および6月29日に  
葉いもち感染好適条件！

- 1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）
- 2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）
- 3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）
- 4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）
- ：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）
- ：好適条件の出現なし
- ？：判定不能

農業技術防除センター提供

感染好適条件から 1 週間後に急激に病斑が増加する恐れがあるため、今後は圃場の発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、「豆つぶ剤」等で速やかに防除を行う。

・圃場内に放置されている補植苗では「いもち病」や「ごま葉枯病」の発生が懸念されるため、補植後はすみやかに除去する。



圃場の置き苗で確認されたいもち病



圃場の置き苗で確認されたごま葉枯病



(ウンカ類)

例年と比較して飛来量が多い。常発地帯では特に警戒を！

表1 イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2024年)

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ									
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県		佐賀県			長崎県				
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神崎市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	諫早市		
ネット	ライト	ライト	ネット	ネット	ネット	ライト	ライト	ライト	ネット	ネット	フェロモン	フェロモン	粘着トラ	粘着トラ	粘着トラ	粘着トラ	フェロモン	フェロモン			
	トラップ	トラップ	トラップ	トラップA	トラップB	トラップ	トラップ	トラップ	トラップA	トラップB	トラップA	トラップB	ップ(20W	ップ(20W	ップ(20W	ップ(20W	トラップA	トラップB			
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	1	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	3	0	0	0	0	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	8	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	23日	0	24	0	0	0	25	66	8	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	24日	0	14	0	0	0	13	92	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	25日	0	1	0	0	0	0	148	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	26日	0	9	0	0	0	0	187	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	27日	0	3	0	0	0	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	28日	0	7	0	0	0	0	30	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	29日	0	4	0	0	0	3	31	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	30日	0	13	0	2	0	15	5	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	1日	0	229	0	0	0	14	88	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	41	0	0	0	0	97	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

6月23日~24日頃、  
7月1日~2日頃に主な飛来

6月24日~27日頃に  
主な飛来

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業試験研究センター提供  
注2)コブノメイガ:神崎市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。  
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

- 今後の飛来状況や圃場条件(移植時期や品種、圃場の場所等)によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し、発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

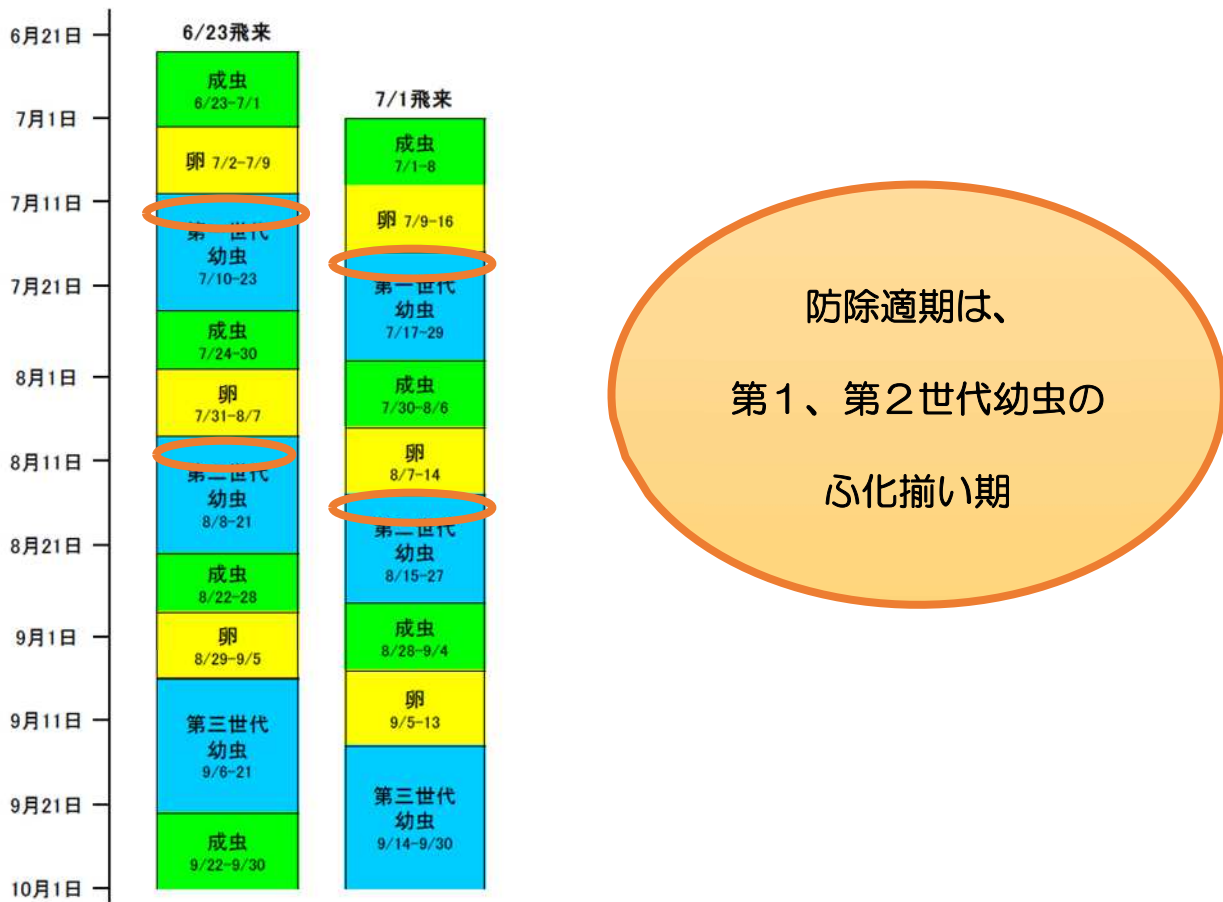


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第1版、2024年7月4日作成)

**「ほ場の調査」と「本田防除」のポイント**

防除にあたっては、トビイロウンカはイネの株元に生息しているので、薬剤が株元まで十分かかるよう、ていねいに散布する。  
各時期別のポイントは以下のとおり (普通期水稻の場合)。

**7月下旬～8月下旬頃 (防除適期の把握と基幹防除)**

○調査：幼虫などの発生状況を調査する。  
●防除：第1または2世代幼虫ふ化揃い期に防除を行う。

↓

**8月下旬～9月中旬頃 (臨機防除の必要性の判断)**

○調査：生き残ったウンカがないか調べる。なお、調査日がウンカの卵期間 (約7～8日間) と重なった場合、発生を見逃すことになるので、複数回調査する。  
【例えば調査時に、第2世代成虫があちこちに生き残っているのであれば、その10～14日後に第3世代幼虫が多数ふ化してくると予測する。】

↓

**9月上旬～9月下旬頃 (臨機防除)**

○確認調査：あらかじめ予測された時期に、第3世代幼虫の発生状況を調べる。  
●防除：幼虫が多数ふ化しているのであれば、早急に臨機防除を行う。対応が遅れると、坪枯れの被害が発生する。

# 令和6年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：伊万里)

西松浦農業振興センター

